



第1号
2018年4・5月前期号

平成30年度 図書研修部 教員紹介

澁谷 康雄 先生 担当教科：国語科

私のお薦めのこの一冊：平井富雄 著 心のトラブル

古本で260円にて購入、文庫版が1990年に出版、約30年前の心理学の本ですが、筆者平井先生の予言が的中しています。古書の醍醐味がありました。「自分らしく、アイデンティティーの確立を、個性を大事に、」の思想は、怖いのだと警告を発しています。つまり、「自分さえ良ければ良い、自分が一番かわいい」という人間が集まった社会が出来上がり、その様な社会は生きづらく、「献身的で良心的な心のやさしい人たち」の心が病んでいくという。評論問題のような内容ですが、妙に自分を取り巻く環境を思い重ねます。「クラス」「清掃」「部活」「地域」など、誰かが誰かのために尽くし、ともに活動することで成り立ってきた社会は、アイデンティティー幻想に囚われ過ぎたのかも知れません。

榊原 保子 先生 担当教科：国語科

私のお薦めのこの一冊：西原理恵子 著 題名 女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと

多様な価値観がある今の社会、女性の生き方も多様化しています。バリバリ働く女性。専業主婦として家事や育児をこなす女性。西原氏のように働きながら育児をして「卒母」宣言をする女性。その他にも色々な活躍の仕方があります。この本を読むと、どんな道に進むにせよ、一度は社会に出て働いてほしいなと改めて思います。西原氏がそばで語りかけてくれているようなそんな一冊です。

鈴木 直美 先生 担当教科：家庭科

私のお薦めのこの一冊：中野有美 著

10代のための「くじけない心をつくる本」

2年1組担任の鈴木です。趣味はテニスと旅行です。みなさんは筋肉を鍛えようと思ったら、筋トレを思い浮かべますよね？では、こころを鍛えようとしたら？こころを鍛えるトレーニング、「ここトレ」をするのです。鍛えられたこころはしなやかに強くなります。高校でテニス部に入り、部長となった彼女が困難を乗り越え成長していく様を自分と重ねてみてください。

小嶋 輝久 先生 担当教科：英語

私のお薦めのこの一冊：司馬遼太郎 著 題名 21世紀に生きる君たちへ ●朝日出版社

私は、いくつかの司馬遼太郎の歴史小説に出会い、感銘を受けました。彼の作品には、人間という生き物が、生々しく描かれています。人間は理屈のみでなく感情によっても左右されやすいことが、上手に述べられています。3年前の夏、東大阪市の司馬遼太郎記念館に行きました。その際に購入した本が、これです。冒頭に「歴史の中には、この世では求めがたいほどにすばらしい人たちがいて、私の日常を、はげましたり、なぐさめたりしてくれる。」とあります。日本という国が、いかにすばしいか、わかります。読んでみてください。

寺澤 真樹 先生 担当教科：数学

私のお薦めのこの一冊：夏川草介 著 題名 「神様のカルテ」

地方病院で勤務する青年医師の物語です。

医療を通じて、主人公である一止が『自分の気持ちに正直に生きている姿』『迷いながらも真剣に立ち向かう姿』にとっても魅力を感じたと同時に羨ましくもなりました。そんな風に生きていきたいです。本を読んで感じることは人それぞれで違いますが、読んで良かったという思える本にたくさん出会いたいですね。

伊藤 一裕 先生 担当教科：英語

私のお薦めのこの一冊：カズオ・イシグロ 著 題名「わたしを離さないで」

ノーベル文学賞、「今年こそハルキ！」と何年か願い続けてきたのですが、2017年文学賞は長崎生まれの英国作家、カズオ・イシグロ氏が受賞しましたね。この本は、受賞が決まる前の夏休みにふと本校図書館で目にして読んでみたものです。（今思えばタイムリーだった！）主人公の若者たちには厳然たる「ある」存在理由があるのですが、彼らが葛藤を乗り越えてこの過酷な運命を受け入れ、けなげに生きていく姿は、とても切なく胸が締め付けられる思いがします。どんなにつらい宿命であっても、やっぱり自分の生を全うするんですね。さて、君はこれを読んで、村上春樹でなくカズオ・イシグロが文学賞を受賞したことに「なるほど」と納得できるかな？

図書館に来館した皆さんと出会うことを楽しみにしております。一年間、よろしくお願ひします。